

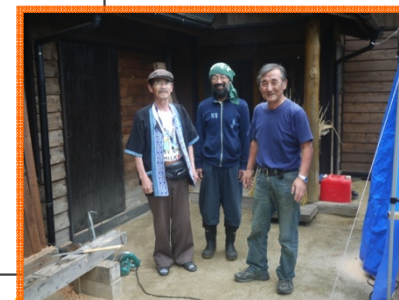
被災から1.5年・・・2012年12月6日
ソーラーライフ・キックオフ!!

12月下旬ファンド募集開始予定
詳細資料ご希望の方は裏面をご覧ください



2011.3.11 野田村の被災状況

「野田だらすこ市民共同発電所」
設置場所:岩手県九戸郡野田村大字野田第7地割118の8
敷地面積:3,813m²
設備容量:48kW
設置目的:地域における電力自給、
災害時の電力供給スポット、
発電設備のエネルギー教育・展示場、
市民発電所の実証の場として活用
資金調達:匿名組合方式
完成予定日:2013年3月
連携予定日:2013年3月



だらすこ工房

12月6日(木) 11:30-12:00

「鋤入式」 @野田だらすこ市民共同発電所建設地



「野田だらすこ市民共同発電所」建設用地



岩手県地球温暖化防止活動推進センター内
現地連絡所:佐々木

eco@isop.ne.jp Tel:019-681-1904

取材窓口

NPO法人 太陽光発電所ネットワーク
市民共同発電所サポートセンター

<http://citizenfund.jimdo.com/>

ccpsupport@greenenergy.jp Tel:03-5805-3577

「野田だらすこ市民共同発電所」趣意書

大震災からの復興が叫ばれる中、被災した困難な状況から身を起こし、自分たちが住む地域を被災前よりもっと良くしていこう、と立ち上がったグループがあります。被災した防潮林の黒松から加工して木工品を作っている「だらすこ工房」(だらすこほーぼー、とは地元のフクロウの鳴き声)のメンバーです。

わたしたちは、極めて困難な状況にあってもなお前に進もうとする人たちに寄り添い、エネルギーを地域で作ること、またそれを地域に広めて行きながら、地元の人々が望む有り様に沿って、地域の文化を大事にすることで、震災前からの課題をも克服して、地域を再生していこうとしています。

被災地への関心が徐々に薄くなり、支援も先細りする中、15年という長きにわたるご縁をいただき、復興に向けた活動とその状況を見守って頂き、ぜひ、みなさんが一口オーナーとなった現地の発電所を訪問することで、新たな交流を生んで行きたいと願っております。野田村は、海辺の景勝地十府ヶ浦(とふがうら)だけでなく、塩の道にみられるように海辺と内陸の交流の中に刻まれた歴史と200年をこえる南部曲がり家に象徴されるような山村文化が残っている水のおいしい地域です。

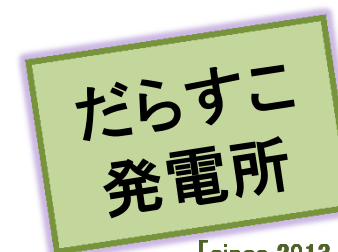
■本プロジェクトの意義

- 地元自らがエネルギーの供給者となることで、技術と知識を兼ね備えた市民を生み出し、被災者の仕事づくりにもつなげる
- さらに他の再生可能エネルギーやさまざまな活動に活用するひな形とする
- 太陽光発電所建設に必要な資材を現地で調達することで、お金を地元で落とす
- 売電収入から地元へ毎年一定の利益がもたらされる
- 被災地への関心が薄れるなか、出資者との15年間にわたるつながりを生む
- 出資者対象の現地ツアー開催、物産での配当など、野田村との関わりを持つことで復興の応援団になっていただく
- 被災という極めて過酷な体験を乗り越え、住民たち自らが、地域の再生の担い手となっていく
- 敷地内での2号基建設を目指し、アジア民俗造形館、苫屋などの近隣の拠点と集落全体での取り組みを地域の活力に変えていく
- 再生可能エネルギーを広く普及させることで、エネルギーの使い方や地球温暖化に対して意識の高い市民を増やす
- これらを大学や研究機関の研究テーマとすることで、人が基本となった復興のあり方を模索する
- 再生可能エネルギーを活用した1つの復興モデルとして被災地に水平展開する
- 超高齢化に向かう地域の生き残りの戦略の事例として確立し、岩手県内はもとより全国にフィードバックしていく

本事業は、PVを入り口としたご縁を、地元で奮闘する、生身のお父さんたちが大事にしてきた野田村の歴史と文化についての応援団になっていただき、地域のエネルギーと人の交流の力を復興に向けていくプロジェクトでもあります。 2012年10月 発起人一同

詳細資料をご要望の方は、氏名（ふりがな）、住所、電話/FAX番号、メールアドレス、希望送付手段（メール・郵送）を明記の上、件名を「市民ファンド資料希望」として下記までご連絡ください。ファンド募集開始次第、詳細資料を送付します。
(12月下旬予定)

FAX : 03-5805-3577 メール : info@greenenergy.jp NPO法人太陽光発電所ネットワーク事務局 宛



「since 2013」